

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：32307

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02300

研究課題名（和文）精神科病院における治療共同体を基盤とした効果的支援モデルの構築と有効性の検証

研究課題名（英文）Construction of an effective support model based on the therapeutic community in psychiatric hospital and verification of effectiveness

研究代表者

鈴木 秀夫 (suzuki, hideo)

群馬医療福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：20458467

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：家庭の状況により研究が大幅に遅れた中での研究成果の概要となる。研究のステージとしてはのぞえ総合心療病院（以下N病院とする）の3部門調査対象者3名（精神保健福祉士、看護師、臨床心理士）とオブザーバーの病院長にインタビュー調査を実施した。本研究は調査の結果や実践家の研究参画を得たことで「効果的援助要素」等有効なプログラムであると確認できた。この成果は他の病院との比較調査を可能にし、次の研究ステージを進められることを証明した。

具体的にはN病院と群馬県内のスーパー救急病棟を運営する3病院との比較調査である。入院期間短縮化に向けた支援方法の違い、組織体制やプログラムの違いが明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

N病院を研究フィールドとして進め、研究方法はCD-TEP評価アプローチ法に基づき進めた。研究者は治療共同体を基盤とする実践家と共に「効果的援助要素」を明らかにし援助要素の有効性を内容分析から示した。例えば多職種によるチームアプローチやそれを支える支援体制を具体的に表すことが出来た。

本研究は重い症状を持つ入院患者への支援として我国における最重要課題の解決に関するテーマに向けたもので学術的意義、社会的意義は高い。最終段階の全国調査はかなわなかったがスーパー救急病棟を運営する病院と、病棟を持たない病院との比較研究に道筋をたてられた。本研究の社会意義が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The research was significantly behind family health problems. outline of research achievements will be in the process. This time, we interviewed the hospital director as an observer with three survey subjects of Nozoe hospital (hereinafter to as N hospital). It's outline of research. practitioners at N hospital also practitioner in the research. with everyone's cooperation, I was able to confirm the "effective aid element" and an effective program for the research purpose. As a result, it become possible to compare with other hospitals. after this, the research was advanced to the next stage. Specifically, it is to compare N hospital and 3 hospitals with super emergency wards in Gunma Prefecture. The comparison is the difference between the efforts to shorten the hospitalization period and the organizational structure and program of the 3 hospitals. This preliminary investigation will be conducted in the final year.

研究分野：社会福祉学関連

キーワード：CD-TEP評価アプローチ法 プログラム評価 治療共同体 効果的援助要素

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 2009年、集団精神療学会で、福岡県にある精神科病院であるのぞえ総合心療病院(以下N病院とする)の治療共同体を指向した取り組みを聞き確かめるため、研究者は2013年同病院を見学した。衝撃を受けた研究者はこの取り組みをもっと広めるために研究課題にできないものかと考えた。後に共同研究者になる新藤から新しい研究方法を聞き、現在も続く日本の精神科病院の長期入院問題に一石を投じられる研究になるのではと考えた。

(2) 新藤からこれからの福祉現場に必要な視点をもつ研究方法と聞き、共同研究を申し込んだ。それが医療機関における実践アプローチ研究、専門家や研究者と共に現場の実践家との協働作業によるCD-TEP評価アプローチ法である。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、精神科病院において症状が重くそのために退院が出来ない入院患者や、同じく症状が重く急性期に集中的な治療・支援が必要な精神科救急入院病棟(スーパー救急病棟)患者を主な対象とした治療共同体による支援モデルに注目し、全国の精神科病院において導入・実施が可能な「治療共同体を基盤とした効果的精神障害者支援モデル」を構築することを目的とした。実践家の参画によるプログラム評価の理論と方法論を用いたアプローチ法として、プログラム理論・エビデンス・実践家間の円環的対話による効果的福祉実践プログラムモデル形成のための評価アプローチ法(CD-TEP評価アプローチ法)を用いた。

(2) 我が国の精神障害者支援の課題は、以下の二つと考えた。

退院を促し、その後の地域生活の実現を目指す仕組みづくり

地域にスーパー救急病棟の役割を持つ、新たに長期入院患者を生み出さない仕組みづくり

今研究では実践家の経験や、成果のあげている実践事例から学び、彼らの「効果的援助要素」を見つけ、その支援方法を明らかにし、さらに実践家と改善して行くことを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 実践現場からの相違・工夫を汲み上げ効果モデルの構築の方法として実践家の参画により協働で研究するCD-TEP法は効果的支援(効果的援助要素)をボトムアップ型で形成評価するものである。この方法は実践現場の創意・工夫を効果モデルの形成に役立て、科学的根拠に基づく効果的なアプローチ法である。

(2) この方法で目指すところは治療共同体を基盤とする精神障害者支援モデルが本来目指すべきゴールを明確化することである。

### 4. 研究成果

(1) N病院の見学を重ね、学会等の発表文献を読み立てた支援プログラムと効果を確認するため、以下3項目を実施した。

発表されている文献を全てコード化し分析。

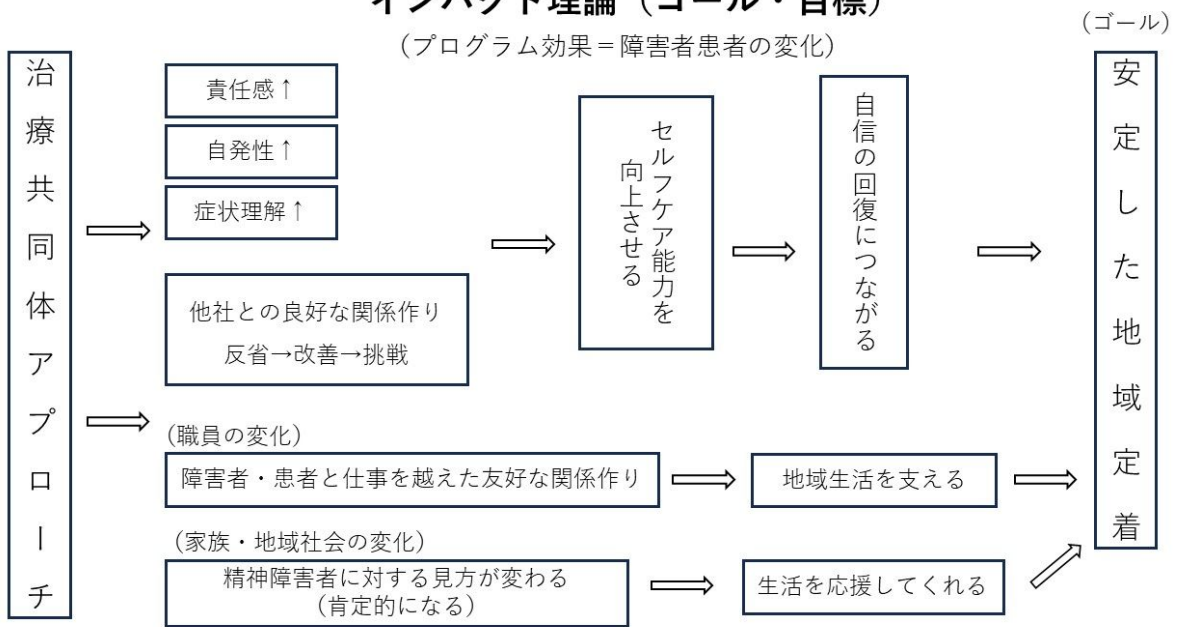
インタビュー調査。

その後、オンライン調査。

に入る前に効果的プログラムモデル(治療共同体アプローチ)をCD-TEP法に基づきインパクト理論と呼んで仮説とした。以下に表したものである。

## インパクト理論（ゴール・目標）

（プログラム効果＝障害者患者の変化）



と研究を進め、CD-TEP 法にのっとり、N病院の実践家の働きかけと研究者の仮説との修正を繰り返し、これまで改善してきた工夫を加えると全く異なった支援が見えてきた。

明確になってきた効果的プログラムモデル（治療共同体アプローチ）には三つの支援がある。

）個別支援はイ. 当事者への働きかけ、ロ. 家族への働きかけ、ハ. スタッフへの働きかけ、ニ. 地域社会への働きかけが縦系、横系の支援として組み立てられている

）集団的支援は全体的プログラムを支援計画として動いており 50 以上のグループワークが機能している。

）これをN病院の組織全体が有機的にサポートしている。それを保証する場として、すべての職員が（同法人に所属する）参加し、発言の自由を原則とする全体ミーティングが行われている。

と進める中、この研究に共同研究者の一員として実践家が参画をしてくれている。もちろん同法人の院長も快く了解し、研究に理解を示している。

（ 2 ）

### 【効果的援助要素 A】

非自発的入院をしている者の処遇で自己申告制を取っていること。入院処遇の変更の要求を自ら申し出る。外出等行動領域を拡げられる「責任レベル」や「服薬自己管理レベル」について所属する入院病棟のグループのミーティングで、レベルアップを申告する。申告について参加グループメンバー（スタッフも含む）が意見を述べ、出なくなったところでレベルを上げることの賛否を取ってみる。その結果について本人の意見や、他のメンバーの意見を再び検討する。吟味が進み全員の意見が一致し、アップが妥当となったところで主治医の意見を聞き『アップ』となる。申告者は一つ自由度が上がる。 という自己申告制のグループワークである。

この責任レベルや服薬自己管理レベルを支えるルールとして、例えば責任レベルであるならば行動範囲を 0（拘束）から 6（N病院所在地市内全域）段階とし、合わせ条件（スタッフ同伴、単独等）も明確に決めてあり公開されている。

### 【効果的援助要素 B】

N病院の効果的プログラム（治療共同体）の働きかけは全てに共通する言語で表せられており、わかりやすく説明されている。「家族に向けても」「スタッフに向けても」「当事者に向けても」例えば上記、責任レベルで説明すると同じ説明を受けているので誰もが何のことかわかる。責任

レベルが6段階に進んでいるから　　さんは入院中だけど街に食事に行っているとかである。研究者はこれを「入院環境を整える」働きかけとして位置付けている。この働きかけは当事者へもスタッフへも病院組織へも、家族へも地域社会へも変化をもたらせている。これが二つ目の効果的援助要素として明確になった。N病院の効果的プログラム(治療共同体)は支援というソフト面だけでなくハード面の变化も起こしている。これらを保証し、支えているものが入院患者一人一人に渡してある個人用のタブレットである。タブレットを見れば処遇が何レベルか、服薬状況が瞬時にわかり、自分の治療状況が見える。

### (3) 群馬県内スーパー救急病棟を運営している3病院事前調査

この後、家庭内の健康問題が表面化し研究に遅れが生じてきた。そこで全国調査の前段階としてスーパー救急病棟を運営している群馬県内の3病院の状況を把握するため訪問を重ねた。3病院とは県立I病院、医療法人S病院、G病院である。この3病院とN病院との大きな相違点は病院全てをスーパー救急病棟で運営しているN病院と病棟の一つをスーパー救急病棟としている点である。また病棟運営に当たりこれまでの経緯を統計処理できている県立I病院と出来ていない2病院である。I病院は入院期間の短縮化のデータを発表している。3病院の相談室責任者である精神保健福祉士に研究方法と目的を説明し、調査協力を得ている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木秀夫
2. 発表標題 社会療法の取り組みと歴史
3. 学会等名 群馬県精神保健福祉士会研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木秀夫
2. 発表標題 精神保健福祉援助実習及び社会療法の実践と歴史
3. 学会等名 群馬県精神保健福祉士会研修会（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新藤 健太  (Shindo Kenta)  (00752205)	日本社会事業大学・社会福祉学部・講師    (32668)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------